



## 2005年度決算報告

## 資金収支計算書

(単位:円)

資金支出の部		資金収入の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
人件費支出	541,811,921	学生納付金収入	711,043,400
教育研究経費支出	193,484,160	手数料収入	19,917,100
管理経費支出	38,063,078	寄付金収入	20,115,291
借入金等利息支出	8,665,825	補助金収入	159,678,866
借入金等返済支出	55,150,000	資産運用収入	3,354,833
施設関係支出	8,083,850	事業収入	3,752,297
設備関係支出	27,008,170	雑収入	25,227,937
資産運用支出	131,000,723	前受金収入	386,959,250
その他の支出	70,254,622	その他の収入	180,176,647
予備費	△ 34,433,414	資金収入調整勘定	△ 377,316,000
資金支出調整勘定	△ 34,433,414	前年度繰越支払資金	705,545,155
次年度繰越支払資金	799,365,841		
支出の部合計	1,838,454,776	収入の部合計	1,838,454,776

2005年4月1日から  
2006年3月31日まで

## 消費収支計算書

(単位:円)

消費支出の部		消費収入の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
人件費	533,161,318	学生納付金	711,043,400
教育研究経費	259,709,683	手数料	19,917,100
管理経費	43,826,551	寄付金	20,751,275
借入金等利息	8,665,825	補助金	159,678,866
予備費		資産運用収入	3,354,833
		事業収入	3,752,297
消費支出の部合計	845,363,377	雑収入	25,227,937
当年度消費収入超過額	97,362,331	帰属収入合計	943,725,708
前年度繰越消費支出超過額	337,761,025	基本金組入額	△ 1,000,000
基本金取崩額	△ 30,136,388	消費収入の部合計	942,725,708
翌年度繰越消費支出超過額	210,262,306		

## 貸借対照表

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	3,067,673,541	固定負債	227,657,262
有形固定資産	2,675,488,888	流動負債	468,964,922
土地	955,981,208	負債の部合計	696,622,184
建物	1,045,359,816	第1号 基本金	3,289,873,815
その他の有形固定資産	674,147,864	第2号 基本金	18,372,179
その他の固定資産	392,184,653	第3号 基本金	30,000,000
流動資産	823,932,331	第4号 基本金	67,000,000
現金預金	799,365,841	基金の部合計	3,405,245,994
その他の流動資産	24,566,490	翌年度繰越消費支出超過額	△ 210,262,306
資産の部合計	3,891,605,872	負債の部・基金の部及び消費収支差額の部合計	3,891,605,872

## 学生数

## 2007年度 前期 公開講座募集要項

学 科		学生数(内男)	
沖縄キリスト教短期大学	英語科	1 年次	132 (10)
		2 年次	162 (15)
		計	294 (25)
	保育科	1 年次	129 (13)
		2 年次	129 (11)
		計	258 (24)
	計	552 (49)	
沖縄キリスト学院大学 ※2004年開学	英語コミュニケーション学科	1 年次	107 (20)
		2 年次	139 (24)
		3 年次	120 (28)
		4 年次	
		計	366 (72)
		合計	918 (121)

2006/5/1現在

講座名(講師名)	開設予定日/時間	対象(定員)
ベン ヴェヌーティ イン イタリア! "ようこそ イタリアへ!" (マルコ・マッセターニ)	4/19~6/28(10回) 毎週木曜日19:00-20:30	一般・学生(30人)
カナダのドラマ教育 (浅野 恵美子)	4/19~6/28(10回) 毎週木曜日19:00-20:30	教員・幼児教育関係者(30人)
カウンセリング理論 (渡久地 政頼)	4/19~6/28(10回) 毎週木曜日19:00-20:30	本学の公開講座(カウンセリング)受講経験者で真剣に学習したい一般社会人(40人)
Community Theatre-Basic English Drama & Ryukyu King Sho-Nei (Lyle Allison)	4/18~6/20(10回) 毎週水曜日19:00-20:30	初級から(英会話能力を伸ばしたい方を含む)(12人以上)
琉球の歴史 (深澤 秋人)	4/19~6/28(10回) 毎週木曜日19:00-20:30	一般社会人・学生(12人以上)
小学校英語指導者の実践研修 「小学校・中学校英語を結ぶPhonics 指導へのプロセスを学ぶ」 (山里 米子)	5/8~5/29(4回) 毎週火曜日19:00-20:30	学校教職員・大学生・幼稚園教諭・保育士・児童英語講師・一般市民(20人)
魅力UP! いきいき自己表現講座 (後藤 尚子)	4/19~5/31(6回) 毎週木曜日19:00-20:30	学生・社会人(12人)
英会話・基本的な表現で流暢に話す練習 (Grant Osterman)	4/17~6/19(10回) 毎週火曜日19:00-20:30	一般・学生(25人)
逞しく心豊かな子供に育てよう! -子供の発達と家族の役割-(垣花 鷹志)	4/17~6/19(10回) 毎週火曜日19:00-20:30	子育て真っ最中のお父さん・お母さん(30人)

受付期間 4/2(月) ~4/12(木) 9:00~17:00  
電話番号 098-946-1240 総務企画課  
詳細は、本学のホームページをご覧下さい。http://www.ocjc.ac.jp

**編集記** 沖縄キリスト学院創立50周年を前にした今号では、大学の動きや学科の特色を活かした教育活動を中心にお届けいたしました。取材中、学生の言葉や卒業生の活躍の中に、建学の精神が息づいているなあと感激する瞬間が何度もありました。ご協力頂いた方々に深く感謝申し上げます。(真栄田)

沖縄キリスト学院大学  
沖縄キリスト教短期大学

2007年3月12日発行

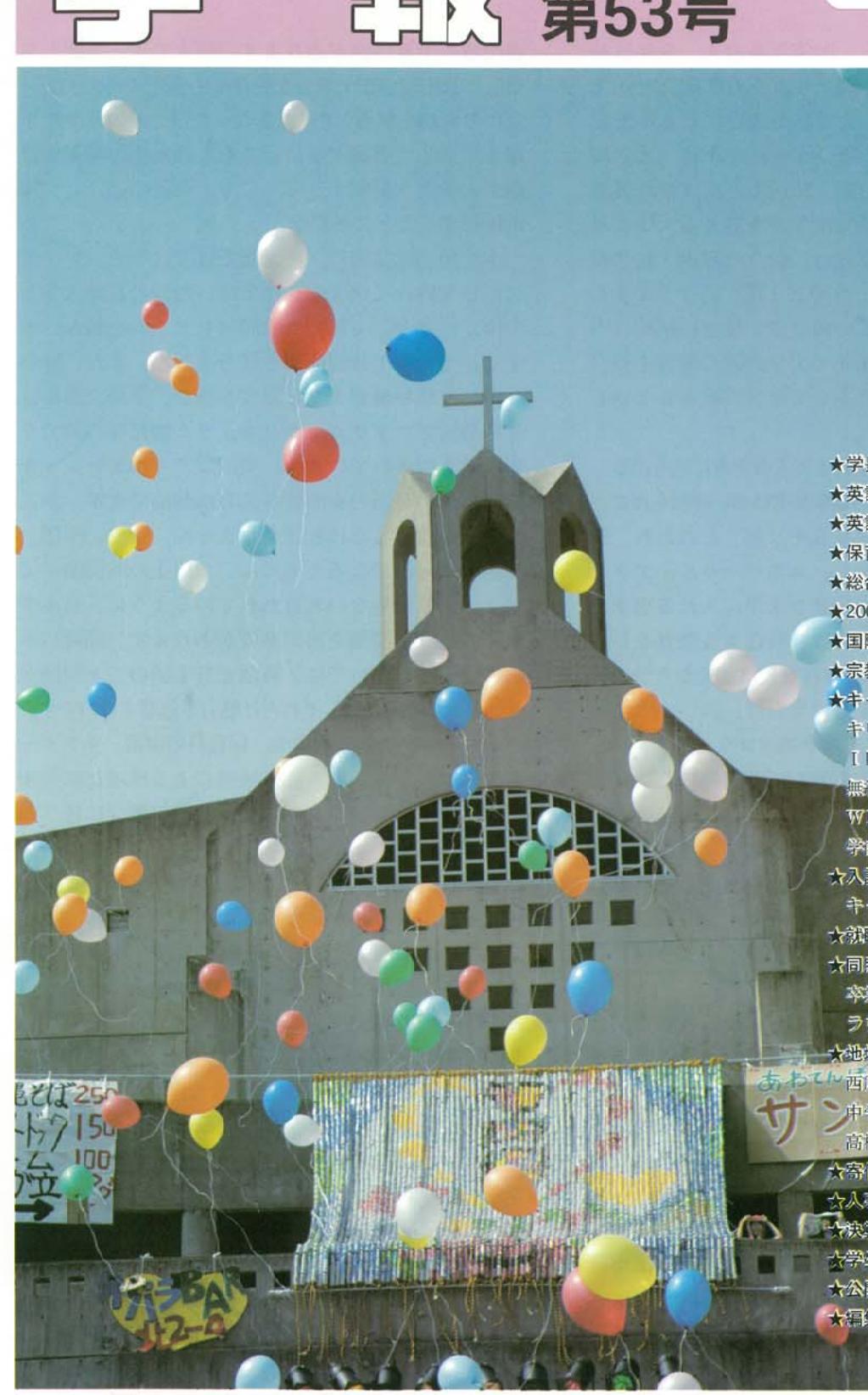
沖縄県西原町字翁長777

☎(098)946-1231㈹ (098)946-1241

編集・発行

沖縄キリスト学院学報委員会

URL http://www.ocjc.ac.jp



キリ学祭 2006年11月11日・12日

## 記事 内容

- ★学長メッセージ ..... 2
- ★英語コミュニケーション学科 ..... 3
- ★英語科 ..... 4
- ★保育科 ..... 5
- ★総合教育系 ..... 6
- ★2006年度採用教員紹介 ..... 6~7
- ★国際平和文化交流センター ..... 8~10
- ★宗教部 ..... 11
- ★キャンパスニュース  
キリ学祭 ..... 12
- I DBセミナー開催 ..... 12
- 無線LANネットワーク ..... 12
- WLOサークル紹介 ..... 13
- 学内NPO「ONE LOVE」紹介 ..... 13
- ★入試課 ..... 14
- キャンパスライフ(学生紹介) ..... 14
- ★就職課 ..... 15
- ★同窓会便り  
卒業生紹介 ..... 16~17
- ラウリー先生来学 ..... 18
- ★地域交流  
西原町民文化講座 ..... 18
- 中学生職場体験学習受入 ..... 18
- 高校生インターンシップ受入 ..... 18
- 寄付感謝報告 ..... 19
- 人事一覧 ..... 19
- 決算報告 ..... 20
- 学生教 ..... 20
- ★公開講座募集 ..... 20
- ★編集後記 ..... 20

## 「共に前進する大学」



2007年を迎える今年は沖縄キリスト教学院にとって大きな分岐点になる年だと思います。今年は、本学院創立50周年と人文学部英語コミュニケーション学科完成年度を迎える大切な年でもあります。本学院は、設立の理由・建学の精神等の教育目標を創立当初より高く掲げてきましたが、50周年を迎えるこの時点で、建学の精神の内実化を図り、それを踏まえて大学設置の趣旨を徹底させ、特色ある大学作りをして社会貢献をしていくことが期待されています。

これまで本学院は卒業生約1万人余を世に送り出し、国内外において活躍している卒業生は高い評価を得て、「英語のカリ短」、「保育ならカリ短」と言われ、親しまれてきました。しかし、ユニバーサル・アクセスという誰でもいつでも好きな大学に入れる恵まれた時代になってきた現状では、特色ある教育をしっかりとできなければ、大学の存在意義は弱くなります。四年制の完成年度を迎えるに当たり、幾つかの反省を試みる必要があります。本学英語コミュニケーション学科の特色は、英語を駆使して国際的に活躍できる教養豊かな人材の育成にあることは、周知の事実です。そのため、3年次に外国の大学で学ぶジュニア・イヤー・アブロードの実施を予定していましたが、希望者がとても少なく残念です。今後は3年次にこだわらず、希望者には外国で学ぶよう積極的に奨励します。

本年度教職員新年礼拝の際にも言及しましたが、英語に関して、ある一定の数値目標を掲げる必要があります。と言うのは、3年生になって、アメリカの3年の正規のクラスを受講するにはTOEFL575点が要求されます。この点数を基準にした英語の成績の目標は、次のようになります。ジュニア・イヤー・アブロードを前提にして2年終了時に、英検準1級、TOEIC770~800、TOEFL560~600点を取れるよう目標を設定しなければなりません。本学英語コミュニケーション学科には、中高英語教員免許が取得可能であるし、国際交流、国際サービス、国際ビジネス等の

沖縄キリスト教学院大学  
沖縄キリスト教短期大学  
学長 神山 繁實

専門職に至る専修があります。短大では入学時と卒業前にTOEICのIPテストを受けてもらっていますが、今年の成績を見ると835点を取った学生もいます。学部を卒業して就職するにしても、高度専門職業を目指す大学院へ進学するにても、英語の高いレベルを維持することは必要なことです。

本学の国際交流は、英語圏だけではなく、アジアにも目を向けています。昨年は、台湾の長榮大学との協定の実として双方で共同プログラムを組み、本学と長榮大学で共同研修を持ちました。また、昨年9月には華中師範大学と協定を結び、学術交流をはじめ共同プログラムやカリキュラム開発等の協力をする道も開かれています。英語コミュニケーション学科では、英語力をつけることは勿論ですが、第二外国語を重視しなければなりません。台湾、中国、韓国でも一流になるためには二つ以上の外国語ができなければならないと言われているように、日本でもそのような認識を持つ必要があります。同時に本学の留学生にとっては、英語と日本語の二ヶ国語が学べる大学であれば、それだけ魅力も倍増するのです。その他、中高英語教員養成、保育科の実習、インターンシップ、留学制度、総合研究による地域貢献等報告すべきことは多々ありますが、別の機会に述べたいと思います。また、本学院50周年記念事業の一環として保育系の四年制化と人文学部に接続する大学院の設置作業も進められています。

学生の学力向上と共に、教授陣のFD（教員資質向上）や事務職員のSD（事務職員資質向上）の取り組みを積極的に実施し、質の高い教育を目指しています。教職員間にあっては、共働による学生サービス、教育、研究、学内運営、地域貢献等様々な課題を負いつつ、高い理想と志を掲げて学生・教職員が共に前進していくよい校風を築いていきたいと願っています。本学院の建学の精神を堅持し、教育・研究・奉仕を推進していくことは、神の栄光を高め、隣人愛の実践を惜しまない豊かな人間性の涵養にも通じる道だと確信しています。最後に、常日頃から本学院を覚え、ご支援いただいている皆様に心から感謝の意を表します。

## 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科



### チーム・ティーチングを取り入れた同時通訳（日→英）集中講座

英語コミュニケーション学科  
山里 恵子 教授

本学院で毎年夏に開講している同時通訳集中講座は、四大（英語コミュニケーション学科、主催）と短大（英語科、共催）が共同で行う事業（授業）である。講座の大きな特徴はプロ通訳者と本学院教師のチーム・ティーチングである。

まず、プロの通訳者について述べるとすれば、本学院ほど恵まれたものは無いと言える。なにしろ超一流の方（宮田耀彰氏、日吉慶子氏）が、講座期間中常駐し、授業は勿論のこと、授業外交流においても多大なアドバイスを下さっている。受講者は、通訳業とその裏話を聞く又とないチャンスを得ている。そのプロ通訳者が行う授業では、「日本語の正しい使用」が強調される。訳語としての単語選択から日本語のイントネーションまで徹底した指導が行われる。日本語は「母国語」で、何年も問題なく使いこなしているはずなのに、一度発声すると、「もう一度」とか、「はじめから」とか、何度も「確認」を促す「命令」が跳ね返ってくる。英語を学んで母国語がこれほど鍛えられるものは無い。しかも、音声上の注意なので、いつの間にか自分の日本語が綺麗に響くようになっている。プロ通訳者ならではの指導である。更に、CNN等のニュース番組を30分以上も聴かされ同時通訳に挑戦させられる。どの受講生にとっても超刺激的な授業である。この刺激がたまらなく、リピーターとして受講する方も年々増えている。その中には、既に通訳の仕事についている方もいる。いかにレベルの高い授業を行っているかがわかる。プロの先生方に感謝申し上げる次第である。

本学院の教師には、プロの先生のアシスタント（浜川仁）をする者もいる。また、本学の特徴を生かすべく教材の提供やその授業を行ったり、新聞記事を翻訳させたり、NHKニュース番組（二ヶ国語）のあるトピック



クを学生にトランスクライプ（書き取り）させたりという体制で、チーム・ティーチングに臨んでいる。本学の特徴ある教材とは、「月曜礼拝のメッセージ」とその録音テープである。今回は、スラッシャー先生のメッセージ原稿と録音テープを提供した。メッセージは言うまでも無く素晴らしく、さらに、受講者を満足させたのは、先生の英語音のクリアな響きであった。（授業担当：城間仙子）

新聞記事を翻訳させる方法は、翻訳の意味や正確さを見直すのに大変効果のある訓練である。新聞記事とは、今現在起こっていることを扱っており、多くの者が共通認識を持つ事柄である。それをどう訳すればいいかを検討することができる。特殊用語や常識を身につけたら、同時通訳に役立てる事が出来る。（授業担当：David Ulvog）

学生によるトランスクライプは、今回初の試みであった。トピックは、トリノ・オリンピックで行われたフィギュア女子、荒川静香選手のイナバウアで、映像そのものも美しく感激しながらの学習となった。（授業担当：山里恵子）

上記に見られるように、本講座は、プロ通訳者と本学院の教師によるバランスの取れたチーム・ティーチングである。学生や社会人、県外からの受講者からも高い評価を受けている。永続出来ることを望んでいる。

最後に、このチーム・ティーチングの様子を2006年8月、福岡、西南学院大学で開催された国際学会 “The 4<sup>th</sup> Asia TEFL”、シンポジウム部門で本学院の教師4名（城間仙子、David Ulvog、浜川仁、山里恵子）が発表したことをお知らせいたします。

2006年8月2日（水）～9日（水）の8日間、通算14回目を迎えた同時通訳集中講座が開かれました。受講生は57名（一般社会人25名、学生32名）。



## 沖縄キリスト教短期大学 英語科

### 「入学前学習支援プログラムをスタートさせます」

英語科

作田 真由子 教授



英語科では、2007年4月入学生から、入学前学習支援プログラムを実施することにしました。大学合格から大学入学までの間の学力低下を防止し、基本的な知識をもう一度確認しておいてもらうのが狙いです。今回は、教材として、TOEIC Testに出る英文法の問題集を選びました。TOEIC Testについて少し説明しますと、TOEIC (Test of English for International Communicationの略称) は、英語によるコミュニケーション能力を評価する世界共通のテストです。実践的な英語の運用能力を測ることが出来るため、新入社員の英語能力測定や、海外出張、昇進の条件として利用する企業が日本でも増えてきています。基礎的な英文法力は、英語

を学ぶ上で大変重要であること、加えて、入学してすぐ学内で実施される、TOEIC-IP Testの対策としても有用であろうということで、今回はこの教材を選んでみました。入学予定者の皆さんにしっかりと取り組んでくれることを期待しています。

英語科では、2006年4月から、若い優秀な教員を二人お迎えしました。仲座栄利子先生と、柳田正豪先生です。キリ短出身のお二人は、後輩へたくさんの有益なアドバイスをくださることと思います。平均年齢がかなり若返った英語科では、学生の皆さんへの、ますます親身でアットホームな指導を目指しています！

### 「第18回高校生英語弁論大会」開催

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学主催による、「第18回高校生英語弁論大会」が2006年12月9日（土）に本学チャペルにて開催されました。

本大会は、沖縄の高校生が自分の考えや意見を英語で自由に発表できる場を提供し、コミュニケーションの能力を高めることを目的としております。

第1次審査には、県内から多くの学生が応募し、その中から本選出場者として12名が選ばれました。

	学校名	学年	入賞者名	演題（和題）
1位 特別奨学金 (在沖米国総領事館)	興南高等学校	3	諸見里 愛美	「マルチングポット」と「サラダボール」
2位	開邦高等学校	1	稻嶺 里香	医療のグローバル化
3位	向陽高等学校	2	兼箇段 元	音楽の力
沖縄キリスト教学院大学 沖縄キリスト教短期大学 学長賞（神山繁貴）	球陽高等学校	3	伊禮 奈緒	家族の大切さ
大会審査員長賞 (Best Impromptu)	那覇西高等学校	3	奥山 百合	アイデンティ ～私の帰る場所～



## 沖縄キリスト教短期大学 保育科

### 動植物の飼育栽培と自然界の直接体験を通した総合的学習活動

保育科

照屋 建太 講師



加えてこの活動には、動植物の「生命」を守るという責任を負うことがあります。現在、活動は花や野菜を育てたり、水槽で魚を育てたり、昆虫を飼ったりしています。また、自然界での体験活動として沖縄島北部で1泊2日の宿泊研修を行っています。この宿泊研修では、講師による講演、学友と協力しながら炊飯活動、自然観察や遊び、意見交換、自然の中での遊びを行っています。研修の事後アンケートから、「楽しかった」、「知らなかった生き物や沖縄の自然を知ることができた」、「自然にも危険なことがある」、「友だちとますます仲良くなれた」などという意見が多くありました。

「命ってなんだろう?」、「生きるってなんだろう?」という問題は人が生きている間に解くことのできない難題の1つだと私自身は考えます。現代社会では核家族が増え、アパートやマンションで生活する家族が多く、そのような賃貸住宅ではペットを飼育することが困難な場合がよくあります。加えて、近年では、爬虫類や昆虫類などの生き物嫌いな大人も多くなってきていていると言われています。

保育士や幼稚園教諭の就労時間の大部分は、まだ適切な言葉を使って話すことができない、生き物の認識がない（動植物の扱い方がわからない）乳幼児の相手をすることとなります。先生方はからだの5感を使い、認知、考え、行動しながら、子どもたちが「いま、何を伝えたいのか？」を読み取る必要があります。その中で一番大切な使命として、子どもたちの「命」を守ることもあります。

生き物の飼育栽培活動はそのような言葉を喋らない動植物を相手にしながら、「いま、何が欲しいか？」などを考え、行動する作業の1つです。



アオスジアゲハの幼虫に触れる学生



森林散策

※このような教育研究が評価され、国より私立大学教育研究高度化推進特別補助対象事業として、教育研究経費が一部助成されています。

## 沖縄キリスト教短期大学 総合教育系

### 「朗読の科学」クラスへの挑戦

総合教育系主任

上原 明子 助教授



「朗読の科学」は、理論と実践のバランスをとりながら、体系的な朗読教育を行うクラスです。一人の教師が1つの講義の中で、日本語の音声学の講義と作品分析の学習、朗読、群読の実践を体系的に行うという試みは、教育と研究の分野に対する、私自身への挑戦でした。

この挑戦は、2001年の4月に、学生19名の小さなクラスとして産声をあげました。「深い呼吸に



ことばのライブ

### 2006年度採用教員紹介

沖縄キリスト教短期大学  
人文学部 英語コミュニケーション学科

#### 「沖縄キリスト教短期大学を基点として」

私は沖縄キリスト教短期大学から桜美林大学へ編入し、その後米国カリフォルニア州のサンフランシスコにある大学院でコミュニケーション学の修士を取得した。その大学で非常勤講師を経験した後沖縄に戻り、3年程沖縄キリスト教短期大学をはじめとする県内5大学で非常勤講師を務めた。進路を大幅に変更することになるが、沖縄の歴史を主体として研究したいという目標を満たすため、県費留学生として再度アメリカへ戻り、歴史学博士課程へ進んだ。再び沖縄に戻ってきたのはキリ学開校3年目の2006年4月である。キリ短の学生の頃、語学や多分野の学問の楽しさ、難しさを満喫していた当時には予想もつかない展開でここまで進んできたわけだが、私の思考の基点は常に沖縄にあった。沖縄の専門家が多数いる沖縄でOkinawan Studiesという科目を教えるのは気が引けるが、世界と対比することで沖縄を再導入し、幅広い視野で私たちの現状を理解することができる手助けができるからである。

職位：助教授

出身：カリフォルニア大学サンタクルーズ校 (UCSC) 大学院 サンフランシスコ州立大学 (SFSU) 大学院

学位：修士（歴史学）、修士（スピーチコミュニケーション）

専門：沖縄史、近代東アジア史



福村 陽子

### 2006年度採用教員紹介

沖縄キリスト教短期大学  
人文学部  
英語コミュニケーション学科

#### 「批判力と表現力という知的な力を」



本浜 秀彦

職位：助教授  
出身：ペンシルバニア大学大学院  
学位：Ph.D.  
専門：比較文学、メディア表象論、沖縄研究（近現代文学・占領と文化）

今は文学研究者ですが、大学時代のゼミの専攻は国際経済学でした。卒業後、まず大手鉄鋼メーカーで海外プロジェクトに関わり、その後琉球新報の記者を経て、米国の大学院に留学しました。そうした学問の興味と人生の選択は、自分なりに沖縄を考え続けたからなのですが、英語環境の中、研究者として自分のスタンスを求めて格闘し続け、（再）発見したのが文学でした。

いま文学は、小説や詩のジャンルだけでは語られません。本学で担当している「表象文化論」「文化接触論」の授業では、映画や漫画、アニメなども扱い、時には現実の政治経済の動きを押さえながら、沖縄の文化や歴史を再考しています。また、英文読解力や日本語表現力を高める授業も持っています。このような授業を通して学生には、批判力と表現力という知的で高度な力をぜひ身につけてほしいと思います。赴任して1年、学生たちがその期待に十分応えてくれていることを、心から嬉しく思っています。

沖縄キリスト教短期大学  
英語科

#### 「担当科目は英語講読と英文法です」



仲座 栄利子

職位：助教授  
出身：フロリダ州立大学大学院  
学位：修士（教育科学）  
専門：国際異文化間開発教育

沖縄キリスト教短期大学  
英語科

#### 「広い世界へ」



柳田 正豪

今年度4月より、沖縄キリスト教短期大学の英語科に赴任しました柳田と申します。本短大英語科38期の卒業生である私が母校であるキリ短で教鞭をとることは私の誇りでもありました。お世話になりました恩師の先生方への恩返しを含め、次世代の人材の育成に励んでいきたいと思っています。私が英語を使って大学院でカウンセリングを専攻した様に、学生の皆さんには英語を使って新たな分野に挑戦してもらいたいですね。小さなキャンパスですが、ここから広い世界へ羽ばたく皆さんの背中を押していきたいと思います。共に頑張りましょう！

職位：講師  
出身：メリーランド大学院  
学位：修士（カウンセリング）  
専門：カウンセリング・英語

沖縄キリスト教短期大学  
保育科

#### 「子どもの傍らに寄り添える保育者を」



喜舎場 勤子

2006年4月に赴任いたしました。教育実習を担当し、「教育原理」「保育課程総論」等の科目を受け持っております。現在の研究テーマは、「幼稚園」設立初期（明治期）を対象として、沖縄県への幼児教育流入と展開のプロセスを解明しています。誰がどのような目的で初代幼稚園を設立したのか。また、本県の人々にとって、幼児の集団教育（保育）施設がどのように受容されていったのか。政府当局の動向、関わった人々の生き方、起こったできごと等を丁寧に組み合わせ、それらを読み解いていくと、おもしろいことが数多く見えてきます。

今日の社会は、保育（教育）行政も過渡期といわれ、「子ども」不在のまま「おとな」の側の理屈で色々なコトやモノが決められています。幼稚園設立初期（明治期）と現代を切り結ぶもの。そこから見えてくるもの。学生の皆さんと共に考え学び、子どもの傍らに寄り添える保育者養成のお手伝いができるればと考えます。どうぞよろしくお願ひいたします。

職位：助教授  
出身：琉球大学大学院  
学位：修士（教育学）  
専門：保育思想史・幼児教育学

## 国際平和文化交流センター

### 「沖縄からアジアへ、そして世界へ」 ～平和文化の創造と本学の国際交流～

国際平和文化交流センター長  
新垣 誠（英語コミュニケーション学科助教授）



フィリピン研修にて

国際平和文化交流センターがスタートして、もうすぐ一年が過ぎようとしています。この一年、様々な難問・難題に直面しながらも、本学における国際交流の歴史に、新たな一章が加えられたと思います。初の受入れを伴った台湾長榮大学との交流、国際理解・国際協力を理念に実施されたフィリピン研修など、アジア諸国との関係が拡大しました。今まで語学習得が中心だった米国での研修に加え、英語をコミュニケーション手段としたアジアとの交流は、より広い視野を養い、地球市民としてこれから国際社会に貢献できる人材の育成へつながることが期待できます。暴力の文化に満ちた20世紀から、平和文化創造の21世紀へ。国際社会の切実な願いの実現は、国際平和文化交流センターのミッションでもあります。

## 今年度の国際交流事業

### 1. 国際学術交流協定書調印式

#### (1) 長榮大学（台湾）



神山学長（左）と陳学長（右）

4月10日に、長榮大学（Chang Jung Christian University）と国際学術交流協定書の調印式を行ないました。調印式には長榮大学学長 陳錦生氏、研究発展処處長 李泳龍氏、土地開発学科教授 施鴻志氏、応用日本語学科講師 黒瀬恵美氏が出席し、本学からは大城進一理事長、神山繁實学長他、人文学部長、学生部長、国際平和文化交流センター長らが出席しました。

本学院が国外大学と学術協定を締結するのは8校目となります。（長榮大学は台湾の原風景を残す台湾南部に位置する、美しい広大なキャンパスと近代的な施設をもつ私立大学です。）長榮大学と本学はキリスト教精神に基づく理念を共有する大学として、相互理解を深め、学術・教育・文化の協力関係を推進していきます。今年度は、学生間の短期交換留学プログラムを実施しましたが、今後は長期交換留学についても検討していきます。

#### (2) 華中師範大学（中国）



華中師範大学名誉学長兼中国教会大学史研究センター主任の章氏と共に

9月21日、華中師範大学（Central China Normal University）と「相互的教育支援に関する協議書」を交わしました。華中師範大学はキリスト教大学を母体として1903年に設立された国立師範大学です。神山学長、英語コミュニケーション学科高崎正名教授が同校を訪問し、加藤実牧師（中国教会大学史研究所教授日本基督教団派遣宣教師）の協力の下、締結が実現しました。

華中師範大学の馬学長は、本学の英語カリキュラムを高く評価され、英語教育と日本語教育の両面で協力していきたいとの要請がありました。また、東アジア近代史研究や幼児教育の面でも意欲的に交流を行なっていきたいとのことです。学術交流や共同研究を中心に、学生相互の交流や研修プログラムの可能性を検討しています。また、華中師範大学は、2007年度には1500名の留学生を受け入れること。中国語修得のためにもよい環境が整備されています。

## 2. 短期交換留学プログラム

### (1) 長榮大学生の沖縄研修

6月22日（木）～7月5日（水）の2週間にわたり、日本語学科を中心とする16人の長榮大学生が来沖しました。本学キャンパスを中心に、講義、フィールドトリップ、ホームステイなどを通じて日本語や沖縄の歴史・文化を学び、本学学生との交流を深めました。

参加した学生全員が初来沖でしたが、気候や歴史的な類似点等に親近感を覚えたようです。日本人学生とのディスカッションや、ホストファミリーと共に過ごした週末が特に思い出に残ったと話していました。



フィールドトリップ 首里城見学

「文化接觸論」  
日本人学生とディスカッション

「日本語パフォーマンス」

### (2) 本学学生の台湾研修

8月29日（火）～9月11日（月）の2週間、本学学生6人が台湾研修に参加しました。前半は台北から台中にかけてのフィールドトリップ、後半は長榮大学における講義中心のプログラムでした。

**(参加した学生のレポート)** 英語コミュニケーション学科2年次 濑良垣由奈

今回の初の交換プログラムでは、お互いの国の文化や風習を学ぶ事はもちろんのこと、それ以上に両国の学生たちの絆というものが生まれました。最初は言葉の壁がありお互い距離を感じていましたが、台湾の学生達が積極的だったため、すぐに打ち解ける事ができました。

長榮大学は、私たちの大学とは比べものにならない程大きく、校門から校舎や寮があるキャンパスまで10分は歩きます。また、学科もすごくたくさんあり、その分様々な個性の学生がいました。

寮での生活はすごく良い経験になったと思います。寮での生活を通して、一般の台湾の学生の日常や習慣などを知ることができました。沖縄の歌や台湾のゲームを教えてたりして、寮での生活があったからこそ、交流が更に深かったと思います。

また、授業もすごく充実していました。私たちの大学では中国語は大陸のやり方で教えていますが、長榮大学では台湾式のやり方でも教えていたので両方学ぶ事ができ、更に中国語への興味が増しました。台湾の歴史の授業はすべて英語で、難しい単語などもありましたが、私たちにとっては英語力を試す良い機会でした。フィールドトリップでも台湾の文化や歴史を学んだので授業が理解しやすかったです。一番興味があったのは水墨画の授業で、墨と筆一本でこんなにも情景豊かな絵が描けるのに感激してしました。先生はすらすらと描いていたので、私でも簡単にできるのかと思い挑戦してみましたがかなり難しく、墨の色の黒一色で遠近感を出さなければならない事に苦戦しました。

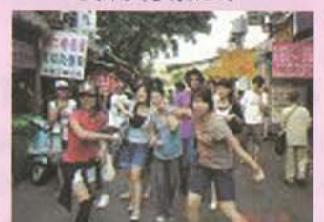
最後の授業が終わった日はみんなで楽しくおしゃべりをしながら一緒に餃子を作り、餃子パーティーをしました。日本では餃子と聞いたら焼き餃子を連想しますが、台湾の餃子はゆでた餃子が主流であり、それが私たちには新鮮に感じられました。

帰る日が近づくにつれ、「月日がたつのは早い」と皆口をそろえて言っていました。最後の晩も皆眠ろうとはせずに、一つの部屋に集まりメールアドレスを交換したり写真を撮ったりと、名残惜しそうにおしゃべりをしていました。別れの日には空港まで見送りに来てくれて、お互いに泣いて別れを惜しみました。

私たちの後輩もこのような体験ができるよう、これからもずっとこの交流プログラムを続けていってほしいと思います。



長榮大学寮にて



フィールドトリップ



水墨画クラス



水餃子作りに挑戦！

## 国際平和文化交流センター

### 3. フィリピン研修

9月6日～12日までの1週間の行程でフィリピン研修を実施しました。今年度スタートしたこの研修は、先進国に住む私たちが普段目につくことのない途上国の現状を知ることが主な目的です。世界の大多数の人々が抱える様々な問題を目のあたりにすることで、私たち自身のライフスタイルもまた違ったものに見えてきます。スラム街やゴミ山に住む人々。マザーテレサの施設で死を待つ老人や、障害を持った孤児たちとの出会い。その人々との触れ合いは、新たな人生観・世界観へと私たちを誘います。第一回目の研修を受けて、学生たちは国際協力のプログラムを自主的に始めようとしています。



マニラ湾ナボタス地区海岸沿い水上生活者の現状視察



マニラ・トンド地区船路上に暮らす人々との交流



ケソン市ゴミ処理場（ゴミ山の住人との交流）



ゴミ山の保育施設視察

#### (参加した学生のレポート)

英語コミュニケーション学科3年次 知花美奈

今回のフィリピン研修は本当に貴重な体験だった。

私たちの住む沖縄から飛行機でほんの数時間。TVや本だけでは知ることができない現実がそこにはあった。生まれた場所が違うだけでこんなにも格差が生じていいのだろうか？

滞在中、様々な理由で苦しい生活を強いられている人々に会う機会がたくさんあったが、どの人も素敵なお顔の持ち主だった。言葉は通じなくても、目を見たとき、手をつないだとき、一緒に歌をうたったとき、彼らと1つになれた気がした。そして彼らのために自分たちができるを見つけ、それを一生続けていきたいと思った。

その時の決意が現在、この研修に参加したメンバーの国際協力活動参加への原動力となっている。



キリ学祭での報告会

## 4. 沖縄文化講演会

沖縄地域留学生交流推進協議会主催事業の一つである「沖縄文化講演会」。外国人留学生が沖縄地域の文化をよりよく理解し、沖縄県に留学した意義を深めるため、県内大学が交代で毎年実施しているものです。第5回となる今年度は本学が当番校となり「琉球ポップChamplu\_u」と題し、11月2日に本学内において開催しました。

琉球舞踊や沖縄民謡などの伝統音楽と、ヒップホップ、ラップなどの現代音楽を掛け合わせた演目や、沖縄の社会問題をテーマにしたコントなど、本学の学生もそれぞれの特技を生かして出演しました。

また、沖縄創作民話「ぶながや物語」の原作者たいらみちこによる朗読、県出身のミュージシャン「カクマクシャカ・ファミリア」のライブもあり、音楽や笑いを通して、沖縄の歴史と文化を再認識する機会となりました。

国際平和文化交流センターでは、「伝統文化」「国際協力」等への学生の認識をさらに深め、国際的意識向上を図るために、2007年度事業としてピース・フェスティバルの開催を計画しています。



琉球舞踊～獅子舞～



学生お笑いコンビM&amp;M's



伝統芸能と現代音楽の融合



カクマクシャカ・ファミリア

## 宗教部

### 聖書の1ページから

#### 「先達に倣う」



宗教部長

金 永秀 (きむ よんす)

(英語コミュニケーション学科助教授)

いには、ステパノという人物を死に至らしめたということをした人物でした。その彼が、「わたしに倣う者となりなさい」と命じているのはどういうことなのでしょうか。それは、単に立派な行いを「倣う」とか、人のできないような超人的な働きを「倣う」という事とは全く違っています。パウロに倣うべき事は、悔い改め、赦される信仰ということです。

沖縄キリスト教短期大学・学院大学の創立者は、仲里朝章という方です。本学院は、仲里先生の深い反省と、心の痛みを出発点にしています。1939年、日本が中国との全面戦争から、アメリカ・イギリスを始めとする連合国との戦争に突入しようとする時、東京から帰ってきて那覇商業高校の校長になった彼は、生徒達に戦争で死んでくることを美化し、立派にお國のために死んでくるという、當時あたりまえとされた教育をおこなった人ありました。事実、教え子たちを戦地へと送り、そのほとんどが帰らぬ人となりました。

そのようなことを悔い改め、戦後、教師を辞し、「首里教会」の牧師になった仲里先生は、キリストの本当の教えによる教育、殺すための教育ではない、他者とともに生きる教育を目指して、沖縄キリスト教学院を設立しました。生前ずっと彼の心にあったのは、戻ってこない自分の教え子たちのことであったといいます。人を死なせた者、しかも愛するものを死なせた者は、自分自身を赦すことはありません。仲里先生もそのような慚愧の思いを胸に抱いておられたことでしょう。しかし、先生がパウロと同じ、赦しの声を聞いた時、沖縄キリスト教学院は出発することを許されたのです。本学院が「倣う」べき最も大切なことは、赦された存在として歩むということであり、これにより新しい使命とビジョンを持つということではないのでしょうか。

「兄弟たち、皆一緒にわたしに倣う者となりなさい。また、あなたがたと同じように、わたしたちを模範として歩んでいる人々に目を向けなさい。」

新約聖書  
フィリピの信徒への手紙3章17節

本年は1957年に本学が出発してちょうど50年に当たる記念すべき年です。今年の春、卒業生、新入生となる皆さんには、この学院の記念すべき区切り年の記念すべき人々という事になります。

本日の聖書の箇所は、キリスト教最大の伝道者であり、神学者、思想家として知られるパウロという人が、フィリピという街の教会に宛てた手紙の一節です。このパウロという人がいなければキリスト教は、現在のように世界に広がる事はなかったのではないかといわれるほど、偉大な人物でした。このため、西欧人でパウロにちなんで名前をつけられた人々は多くいます。元ピートルズのポール・マッカートニーや、俳優のポール・ニューマンもその一人ということになります。

しかし、このパウロという人物の人生の歩みを見てまいりますと、彼はキリスト者として大きな苦難を持つ人物であったことがわかります。キリスト者になる前、キリスト教会を迫害し、その伝道活動に甚大な障害を与えました。多くの人々を苦しめ、つ

## キャンパスニュース

## 『第42回 キリ学祭』

『For the Earth ♪ここから始まる エコっと Life—みんなで摂取 i のサプリー』をテーマに、「第42回キリ学祭」が2006年11月11日(土)・12日(日)に開催されました。

去年の先輩方が残してくれた形を活かして、常にエコについて考えていくという思いから、今年のテーマが決まりました。テーマにある「サプリ」には、「新入生は今まで本学の学生がどんな活動をしてきたかわからない。そこで、全学生にAction(行動)を求めるのではなく、Knowledge(知識)を与える機会を作り次のステップに自らの意志で考え進んでもらう」といった思いを込めました。

一人でも多くの方に、身近な環境問題やエコに関しての知識と理解を深めてほしいとの願いから、今回エコゾーンという場所を設けました。



“あなたが考えるエコは何ですか”～来場者参加コーナー



児童文化研究サークルによる人形劇



Fair Trade(公正貿易)の商品を扱ったカフェ



沖縄キリスト教短期大学  
保育科2年次  
國吉 弘(学生会長)

エコゾーンでは、古着を利用したコースター作りなどの、手作りコーナーを設置。その他にも、環境について見直そうという視点から、環境問題に取り組んでいる様々な組織やNPO団体の紹介・掲示を行いました。

その他にも、沖縄で活躍しているアーティストによるライブや学生による企画・出店、サークル発表など多彩な催しが行われました。二日間の入場者数が約8500人という大盛況で、私たちだけでなく来場者も楽しむことができました。

当日の学祭の模様は学生会HPにて掲示していますのでぜひご覧下さい。

## IDBセミナー開催

2006年5月18日(木)本学チャペルにおいて、“Enhancing Partnerships Between Okinawa and Latin America”というテーマで、IDB(米州開発銀行)セミナーが開催されました。

ファウスト メディナ=ロペス氏(米州開発銀行駐日事務所次席)の講演や、「My Experiences with Latin America: A Personal Reflection」と題した本学院大学の野崎茂教授の講演も行われました。

Inter-American Development Bank (IDB)  
Okinawa Christian University (OCU)  
University of the Ryukyus



左から、鹿戸丈夫氏(米州開発銀行駐日事務所長)、  
ファウストメディナ=ロペス氏(米州開発銀行駐日事務所次席)、  
嘉数啓氏(琉球大学理事)、野崎茂氏(沖縄キリスト教短期大学教授)、  
ランドルフスラッシャー氏(沖縄キリスト教短期大学人文学部長)

## 無線LANネットワーク

無線LANネットワークが整備され、2004年度からコンピュータ教室以外でもインターネットや電子メールの利用ができるようになりました。自分のノートパソコンを使って、図書館で資料を調べながらインターネットで情報検索したり、時間を気にすることなく学生ユニオンで友だちと自由にインターネットを利用することができます。



## サークル紹介

## WLOサークル

## 「We Love Okinawa」



2006年7月30日(日) 宜野湾トロピカルビーチ側にてクリーン活動(普天間高校ボランティア部とともに)

WLO(We Love Okinawa)サークルは、2006年5月11日に設立しました。沖縄を愛し、美しい自然を残すために、県内の海岸でのクリーン活動を中心に行っています。現在メンバーは46名おり、クリーン活動はこれまでに6回行ってきました。

その活動の中で、私たちがただゴミを『拾う』ことで満足しているだけでは、ゴミのない美しい島にはならないと感じました。一人ひとりが『捨てる』ということに対して罪の意識がないからだと思います。その意識を高めるため、この活動を多くの人の目に触れてもらえる場で活動するよう取り組んでいます。皆さんもその意識を持って、海岸にでかけてみて下さい。違った沖縄の姿に、驚かされることでしょう。また、幼児期のクリーン活動が、自然を守ることに繋がるのではないかと考え、今後保育所や幼稚園にも協力を求めて活動していきたいと思います。

サークルの活動で欠かせないのが市役所や役場との協力関係です。サークル活動は許可できるが、ゴミ回収までは無理だと断られたこともあります。そんな中、私たちを支持してくれた公共機関の方々に心から感謝したいと思います。このような沖縄の現状を知り、これから沖縄の自然を残していくためにどのような取り組みが必要なのかを見出すことができました。この情熱を絶やさず、これから次世代の情熱をサポートしていくような大人になりたいと思います。

## これまでの活動

2006年5月21日	第1回活動 西原町 ていーだ公園(28袋回収)
2006年7月17日	第2回活動 宜野湾市 トロピカルビーチ横テトラボッド(45袋回収)
2006年7月30日	第3回活動 地域交流 [ALL OKINAWAクリーンアップ 2006!夏]
2006年8月20日	第4回活動 中城村 吉ノ浦公園(20袋回収)
2006年10月15日	第5回活動 西原町 歩け歩けクリーン活動(45袋回収)
2006年12月27日	第6回活動 北谷町 宮城海岸(7袋回収)

※これらの活動の様子を沖縄キリスト教短期大学のホームページに掲載しておりますので、ご覧下さい。

## 学内NPO

## 「ONE LOVE」

## 紹介



キリスト教短期大学「ONE LOVE」

開発途上国商品を販売

販売の目的は「世界平和の実現」

販売の方法は「アートレード」

販売の場所は「花巻村」

花巻村の特徴は「豊かな自然環境」

花巻村の問題は「資源枯渇」

花巻村の課題は「資源枯渇」

花巻村の目標は「資源枯渇」

花巻村の使命は「資源枯渇」

花巻村の運営は「資源枯渇」

花巻村の運営は「資源

## 入試課

### 『キリ学でAO入試導入』

多くの受験生の皆様からの熱いご要望により、2007年度入試より沖縄キリスト教学院大学はAO入学試験を導入しました。

本学のAO入試は、コミュニケーションを重視した相互理解型の入試制度です。英語コミュニケーション学科の教員との複数回の面接を通して、本学の教育内容・卒業後の進路など、受験生の個性・能力・適性などについてじっくり話し合うことによる入学者選抜制度です。2007年度入試では、54人が受験し、53人が合格しました。

AO入試では、本人のこれまでの活動歴とこれからの進路に関する希望・姿勢などを総合的に評価させていただき、本学で学ぶ意欲に溢れた学生を受け入れます。

入学手続き後は、本学の英語ネイティブスピーカーの教員とのメールや郵便等によるコミュニケーションにチャレンジしてもらいます。また、英文の課題図書の内から1冊を選んでいただき、読書をしてもらうなどの入学前に様々な英語に関するサポートプログラムも用意しております。

キリ短におきましても、従来の社会人に限っていた

AO入試の拡大が検討されています。新しい入試制度を活用して本学で学びたい学生がどんどん入学してくれれば幸いです。

意欲のある皆さんの志願を待ち望んでいます。

詳細はHP、または入試課までお問い合わせください。

<http://www.ocjc.ac.jp> 電話：098-945-9782



AO入試相談会風景

## キャンパスライフ

### 編入学生紹介



「井上さんは大学生サポートとしてのボランティア活動(少年の立ち直りのための学習支援活動等)を評価され、平成18年沖縄県少年育成ネットワーク(個人の部)で表彰されました」

た。当時中学生だった子供が、一生懸命習いたての英語でコミュニケーションを図っているのを見てえらいなと思うながら、英語の苦手な私は、家族の誰かの通訳で別に不自由もしなかった。その後アメリカンスクールで3年間、ボランティアで日本語を教えていた私は、生徒たちの英語の上達に感心していた。それでも英語を再び学びなおすことにはいたらなかった。しかし我が子らが県外、国外へと進学すると、英語ができないために子供

沖縄キリスト教学院大学  
人文学部 英語コミュニケーション学科 3年次  
井上 一代

「すべての出会いに感謝して」  
十代の終わりにヨーロッパを2年間放浪していた私は、言葉が通じないことに苛立ちを覚えていた。夫は学生時代に日本のほとんどの山を制覇していたため、我が子らが中学生になると屋久島、富士山をはじめ、4000m超級のヒマラヤ、玉山、キナバルを家族で登った。当時中学生だった子供が、一生懸命習いたての英語でコミュニケーションを図っているのを見てえらいなと思うながら、英語の苦手な私は、家族の誰かの通訳で別に不自由もしなかった。その後アメリカンスクールで3年間、ボランティアで日本語を教えていた私は、生徒たちの英語の上達に感心していた。それでも英語を再び学びなおすことにはいたらなかった。しかし我が子らが

生きるとは、生かされていることである。自分を丸ごと肯定すると、他人を受け入れやすくなる。私はこの大学で「他人を裁かない」、「他人を赦す」ということを学んだ。私に学びの場を与えてくださった大学に感謝するとともに、学びの場を共有しているすべての人々に、特に夫に感謝している。皆さんもこの大学で共に学びましょう。

## 就職課

### 資格取得奨励金給付制度

～英語に関する資格取得を応援します！～

2006年4月スタート

学生の自発的な資格取得の頑張りを応援するのが、「資格取得奨励金給付制度」です。

在学中に下記の資格を取得すれば、資格の難易度によって奨励金を給付します。

また、在学中に複数の資格を取得すれば、積み上げで最大20万円まで給付します。

奨励金10万円対象資格	奨励金5万円対象資格	奨励金1万円対象資格
実用英語技能検定1級 TOEIC 860点以上	実用英語技能検定準1級 TOEIC 730点以上	実用英語技能検定2級 TOEIC 500点以上
TOEFL-CBT 253点以上	TOEFL-CBT 213点以上	TOEFL-CBT 150点以上
TOEFL-PBT 610点以上	TOEFL-PBT 550点以上	TOEFL-PBT 470点以上

資格取得奨励金給付実績(2006年4月～12月)

	四大	短大	計
実用英語技能検定準1級	2名	0名	2名
実用英語技能検定2級	25名	13名	38名
TOEIC860点以上	0名	1名	1名
TOEIC730点以上	3名	3名	6名
TOEIC500点以上	13名	17名	30名
TOEFL-PBT470点以上	1名	0名	1名
計	44名	34名	78名

#### (学生の喜びの声)

- 卒業までに、10万円が貰えるように、資格取得できるように頑張ります。
- このような制度ができると、資格勉強に張り合いました。
- 念願の英検準1級を取得できた喜びとともに、奨励金という褒美が貰えてとても感激です。

### 2006年度 夏休み就職合宿セミナー

「自分の『働く』をはじめてみるワークショップ」

～いよいよ四大生(1期生)の就職活動がスタートしました！～

2008年3月には、記念すべき四大1期生が実社会へと羽ばたいていきます。

四大生の就職活動を支援するため、自己分析を中心とした合宿形式でのセミナーを開催しました。かなりハードな内容でしたが、ほぼ全員の学生から有益なセミナーだったと言っていました。

日 程： 2006年9月16日(土) 9時～9月17日(日) 17時(1泊2日)

場 所： 沖縄県立糸満青年の家

参加者： 43名 (学生25名、県外講師6名、県内講師9名、就職課スタッフ3名)



#### (参加学生の感想)

- この2日間、正直言って大変でしたが、とても有意義な2日間でした。
- キャスト(講師)の方が真剣に自分の話を聴いてくれて、一緒に考えててくれて、答えてくれてすごく感謝しています。つい感極まってしまいました。
- 自分や他人に対する“気づき”がたくさんありすぎて大満足でした。今後の人生設計に役立てていきたいです。
- 何に興味があるのか分かって、刺激になりました。

## 同窓会便り (卒業生紹介)

### 「未開の地にこそユートピア」



タイ、秘境の地でクビ長族と過ごした誕生日

人には器というものがあるように思います。それは大きさも形も千差万別ですが、夢を叶えたいという強い気持ちを持ち続ければ、人は自分の器量以上のものが出来るのだと日々実感しています。

キリ短在学中、授業の一環で教わったアメリカ人の探検家ハイラム・ピンガムに憧れて19歳のとき初めて海外へ一人旅したのを皮切りに、現在に至るまでに訪れた国は約40ヶ国にのぼります。キリ短の、世界へ羽ばたき無限の空間を飛翔しようという精神は、旅中でも生きていたような気がします。毎回違う国ばかりへ行くので、旅に慣れるということがないせいか、日本で鈍っていた五感が鋭敏になっていき、時には否が応でも自分自身と向き合い、外の文化に溶け込んでいく旅へとなっていました。その中でも印象深い光景があります。

#### 主な経歴・活躍

1995年4月	沖縄県 商工労働部 労政福祉課 嘴託勤務 2年間、戦後沖縄の労働史の校正に携わる
2001年5月	世界一周の旅に出る。約一年かけて22カ国を周る
2001年5月	月刊ハンズのネット上で旅行中の経過を8ヶ月間連載
2001年7月	滞在先のポルトガルで取材を受けてテレビに出演
2006年7月	約40ヶ国を旅した中で遭遇した体験を綴った奮闘記「世界恐怖旅行」が東京の出版社より出版される
2006年7月	OTVスーパーNEWSに生出演。旅の感想と旅行記の紹介
2006年9月	米軍基地内にあるアメリカの企業に入社

英語科37期卒業生  
大井 優子

2003年12月、ヒマラヤ山脈を一週間かけてトレッキングしたときのことです。そこはネパールの中でも貧しい人たちの住む山岳地帯にある小さな集落でした。電気も車も無い、蛇口をひねれば凍りつきそうなヒマラヤの雪解け水で体を洗わなければいけない不便な暮らしの中に、一瞬のうちに何でも出来てしまう豊かさを手に入れてしまった国で生活する私たちが手を伸ばしても届かない心の安らぎを彼らの中にみたのです。雄大なヒマラヤに生きる彼らの凛とした表情の中に、人生で最も大切な事は遙か彼方にあるものを見ようとするのではなく、目の前にはっきり見える“今”と向き合い、日々を大切に生きることなのだと痛感させられました。

旅とは私にとって、楽しいことばかりでなく、人との関わりや色々な価値観を通じて、これからどう生きるかを深く考えさせてくれるものでした。

現在私は、米軍基地内にあるアメリカの企業で、外国人と共に働かせてもらっています。異文化の中に身を置く事によって、自分の成長を感じる日々です。

旅には目的があるように、人生にも目的があるものです。これからも自分自身と向き合い、切磋琢磨しながら人生をクリエイトしていくつもりです。

## 同窓会便り (卒業生紹介)

### 「誇れる仕事を目指して」



保育科20期卒業生  
赤嶺 優子 (旧姓: 金城)

在を目指したのです。その為に、教師としての専門性が見出せるよう研究所にて研究を深めることにしました。

しかし、研究所での生活は、幼・小・中の学校教育のあり方が問われ幼稚園教育について見つめ直す必要性を考えさせられたのです。そこで教育学の真髄を極めたいと思い、大学・大学院に進学し、自己の誇れる仕事を目指してさらに努力をしてきました。

人間は、いつの時代においても、いくつになろうとも生涯学習を絶やさないことが自分を磨き成長していくものと考えます。私は、これからも自分でできることを模索しながら沖縄キリスト教短期大学の設立の目的である“人材育成”に貢献できるように生涯、輝き続けられる人間でありたいと思っています。

最後に、今ある私を育み育ててくださった喜友名静子先生、山城真紀子先生、および諸先生方に感謝をし、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学のさらなる発展を願っています。

私の夢は、子どもと共に過ごせる仕事で自分自身を成長させていくことでした。その夢に向かって沖縄キリスト教短期大学で学ぶ機会を得、幼稚園免許を取得することができました。卒業後は、幼稚園教師として採用され今日に至っています。

在学中は、課題やレポートに追われ多忙な日々を過ごしていました。しかし、沖縄キリスト教短期大学では、学びの視野を広め、モノごとへ課題意識をもって取り組み、自ら学んでいく姿勢が身につきました。

卒業後は、自己の誇れる仕事を目指して、次々と提起される課題と向き合い、自己研鑽を積み重ねていきました。保育に関わる人的環境として子どもたちにとって必要な教師でありたいと思いました。そのようなわけで、可能性をもった子どもたちの個性をひきだしていける価値ある教師の存

#### 主な経歴・活躍

経歴	
1978年 豊見城市幼稚園教諭採用、現在に至る。	
1983年 沖縄県幼稚園教育課程研究員	
1999年 島尻教育研究所研究員	
研究論文	
1991年 「デューイにおける経験と教育について」 (卒業論文)	
1999年 「心豊かに充実した園生活を送るための工夫」 『島尻教育研究所 紀要』	
2002年 「生きる力の基礎を育む保育の工夫」 『島尻教育研究所 実践事例集』	
2004年 「幼稚園におけるプロジェクト・スペクトラムの導入と保育者の省察」 『日本保育学会 発表論文集』	
2006年 「教師の専門性形成を志向した省察保育に関する考察」 (修士論文)	

## L・ラウリー先生 来学



キリ学祭を見学されるラウリー牧師(右から3人目)と  
大城実先生(右端) 8期・9期・11期の卒業生の皆さん

沖縄キリスト教学院で1960年代に教員をされていたL・ラウリー牧師(米国在住)が、当時の学生さんに招かれ、2006年11月11日に本学を訪れました。

来学時はちょうどキリ学祭が開催されており、大城実先生(総合教育系特任教授)や教え子らと約30年ぶりの懐かしい再会を果たしました。

## 地域交流

### 西原町民文化講座 講師派遣

西原町教育委員会主催による、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学・琉球大学提携事業「西原町民文化講座」が開かれました。

この文化講座は、各専門分野について町民向けにわかりやすい内容で講義し、町民の文化教養の向上と生涯学習の振興を図ることを目的としています。

「地域貢献」「生涯学習」への取組みの一つとして、本学からも4名の教員が派遣されました。

#### 西原町民文化講座 (場所: 西原町立図書館)

[前期] 2006年6月~10月 毎月第2木曜日 5回講座

第2回 7/13	沖縄キリスト教短期大学 英語科講師 柳田 正豪	三つの文化を経験して (台湾・日本・アメリカ)
第4回 9/14	沖縄キリスト教短期大学 保育科助教授 大山 伸子	宮良長包メロディを楽しむ

[後期] 2006年11月~2007年3月 毎月第2木曜日 5回講座

第2回 12/14	沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科教授 高崎 正名	なが~く愛して 入門 株式投資
第4回 2/8	沖縄キリスト教短期大学 保育科教授 山城 真紀子	子育ての知恵は、「抱きしめ」と「こちよこちよ」から

## 中学生職場体験学習受入

将来の職業観や人生観の育成を図り、心の教育を推進しようとの目的から行われる「中学生職場体験学習」。本学においても、西原中学校2年生4名(2006年7月3日~7月7日)と浦西中学校2年生4名(2006年7月5日~7月6日)が「職場体験学習」を行いました。

中学生らは事務局や入試課、図書館などで実際の仕事を行い、清掃のプロに教室の掃除を習うなど様々な体験をしました。また台湾の長榮大学から来学した研修生たちと共に「日本語/フォーマンス」のクラスを受講するなど、大学という場を直接感じてもらうプログラムとなりました。

実習を終えた西原中学校の生徒からは、「慣れない作業で大変だったが楽しかった」「仕事のやりとりは正確でないといけないこと、責任感を学んだ」などの感想を頂きました。



## 高校生インターンシップ受入

高校生がそれぞれの職業適性や将来設計について考えることを目的に、西原高校生2名(2006年7月21日、24~25日)及び知念高校生1名(2006年10月3日~5日)によるインターンシップ(就業体験)が実施されました。生徒らは総務企画課や情報センターに配置され、ホームページ作成や電話対応、パソコンを使った事務作業など、実際の仕事現場を体験しました。



## 寄付感謝報告

\*寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

寄付指定 (2006年1月1日~12月31日迄)

個人(48件/¥3,927,000) 団体(37件/¥18,625,791) 合計 85件/¥22,552,791

四年制大学			五十周年記念事業資金			高校生英語弁論		
団 体	1	6,000,000	同窓/在学生	1	15,000	団 体	4	70,000
宗 教 団 体	1	5,000	団 体	2	5,628,791			
学校関係者	1	10,000	教 職 員	2	68,000			
教 職 員	5	385,000						

奨学金			施設設備資金			学生会活動援助費		
一 般	1	50,000	一 般	16	580,000	沖縄キリスト教学院同窓会	300,000	
団 体	10	750,000	同窓/在学生	2	398,000	沖縄キリスト教学院後援会	200,000	
沖縄キリスト教学院同窓会		1,980,000	一 般	1	10,000			
沖縄キリスト教学院後援会		50,000	団 体	3	1,190,000			
宗 教 团 体	1	100,000	宗 教	1	200,000			
学校関係者	2	1,600,000	宗 教 团 体	5	482,000			
教 職 員	5	235,000	学校関係者	3	130,000			
	7	266,000	教 職 員	7	256,000			

国際交流		
教 職 員	1	60,000

## 人事一覧 (2006年4月1日~2007年3月31日)

### 部署長等

国際平和文化交流センター長 新垣 誠  
(任期2006年4月1日~2007年3月31日)

学生部長代行 高崎 正名  
(任期2006年12月5日~2007年3月31日)

### <人文学部英語コミュニケーション学科>

●採用 (4月1日付)  
本浜 秀彦 助教授  
福村 陽子 助教授

●異動 (4月1日付)  
Alfred David Ulvog 講師 (英語科)

### <短期大学>

●採用 (4月1日付)  
仲座栄利子 英語科助教授  
喜舎場勤子 保育科助教授  
柳田 正豪 英語科講師

### <事務職員>

●採用 (6月1日付)  
金城 太 学生部就職課

●異動 (4月1日付)  
澤紙 直子 国際平和文化交流センター (学生部学生課)

●異動 (9月1日付)  
宮元 和子 図書館図書課長 (学生部学生課長)  
友利 道明 図書館情報センター課主任、課長代行 (昇任 総務企画課書記)

城間 勉 学生部学生課長代行 (主任)  
與那原 馨 事務局総務企画課主任 (図書館情報センター課主任、課長代行)

玉寄 勝也 教務部入試課主任 (昇任 入試課書記)  
座波みゆき 学生部学生課 (事務局総務企画課)

●退職 (12月31日付)  
西銘 純子 事務局総務企画課長  
出盛多千夫 図書館図書課主任

### 役員人事 (2006年11月27日付)

監事就任 當山 善堂  
監事退任 大城 宜太郎  
評議員就任 大城 宜太郎